

## 「うどん、古今東西 ～さぬきうどんの生い立ちを探る～」

を開催しました



平成22年11月16日、高松大学・高松短期大学学長の佃 昌道先生を講師に迎え、「うどん、古今東西 ～さぬきうどんの生い立ちを探る～」を開催しました。佃 昌道先生は、日本うどん学会の会長でもあり、うどんの由来や麺の歴史、さぬきうどんの誕生やさぬきにおけるうどん文化など、今回の講座ではたくさんのお話をしてくださいました。

うどんの起源は中国と言われています。唐の時代（800年ごろ）には麺が発達し、宋の時代（1000年ごろ）には、外食として麺料理の需要も増え、麺や料理の種類が進化していったようです。その頃、日本には「麺」というかたちで伝わり、うどんやそばとして広がっていきました。

さぬきでは、弘法大師空海が唐の国からうどんを伝えたとも言われているようです。江戸時代の終わり頃には、さぬきの庶民もうどんを食べていたそうです。また、「さぬきうどん」の命名者は、彫刻家の流 政之氏だと言われています。1963年地方史研究者だった十河 信善氏と二人が、まんのう町のうどん店に行き、「うどんに明確な名前がないのはだめだね。」ということになり、流氏が即座に「さぬきうどんがいい。」と言い、それから広まったそうです。

昔は製麺所へうどん玉を買いに行くと、うどんをうつ人の顔が見え、「また、きまいよ！」と声をかけてもらっていました。買うついでに食べさせてもらっていたこともあるようです。このように、人と人のつながりができることもさぬきのうどん文化のよさだと話してくださいました。

最後に佃先生は、「昔からさぬき人に愛されてきた食文化である『うどん』の文化やそのよさをこれからも伝えてほしい。」と、おっしゃっていました。

